釧路町域再生可能エネルギー導入区域策定審議会
第１回審議会

●実施概要
日時：令和４年 11 月 22 日(火)　13：30～15：00
場所：釧路町公民館（遠矢支所）
参加者：

役割	所属・職・氏名
議長	一般社団法人集落自立化支援センター　代表理事　仲埜　公平
委員（５名）	Ｂ氏、Ｃ氏、Ｄ氏、Ｇ氏、Ｈ氏
オブザーバー	北海道釧路総合振興局保健環境部環境生活課　主幹　梨澤　亜弓
事務局	釧路町環境生活課　課長　山内　博志 釧路町環境生活課　環境政策係　係長　高井　久征 主査　檜森　純 主事　阿部　奨太
説明員（２名）	委託業者

議事次第：１．開会挨拶
２．委員の紹介
３．議長選任
４．審議事項
（１）ゾーニング計画の説明
（２）意見交換
５．今後の予定について
６．閉会挨拶

配布資料：資料１ 議事次第
資料２ 委員名簿
資料３ 座席配置図
資料４ 釧路町再エネ導入促進エリア設定ゾーニング事業委託業務 業務計画書

●議事概要
１．開会挨拶
釧路町環境生活課の山内課長より開会の挨拶を行った。
山内課長：町ではゼロカーボン実現戦略計画を策定し、CO2 の削減目標を掲げており、今後再エネの導入・利用の飛躍的拡大が求められる。一方、再エネ開発に関しては現状として民間事業者によって単独で計画が進められており、法令以外では事業者に情報提供できない。今後乱開発の防止、自然環境の保全及び釧路町の健全な発展のために情報整理の必要がある。本事業は町民や関係者の意見を踏まえながらゾーニングマップを作成していくことを目的としている。客観的なご助言をいただきたい。

２．委員の紹介
事務局より委員の紹介を行った。

３．議長選任
議長として仲埜氏が選出された。

４．審議事項

（１）ゾーニング計画の説明

説明員より、資料４をもとにゾーニングマップのイメージ図を投影しながら本事業の実施内容について説明を行った。

（２）意見交換

委員の中で本事業に関して意見交換を行った。各委員の意見概要は下記のとおりである。

委 員 Ｂ：バイオマスとソーラー発電が増えており、個人事業の小規模なソーラー発電も増えている。観光客が観光道路を通る際にソーラー発電は目立つ。景勝地に近いところでソーラー発電が増えていくのは避けてほしい。町内でも遠矢の奥にある広域農道沿いなど見えにくいところで森林開発を含めてやっていくのはいいことだと思う。釧路湿原を抱える土地として、観光地近くにあるのはどうかとは思うが、時代の流れとして仕方のない部分もあるとは思う。ゾーニングに当たっては景観の部分を十分に踏まえて進めてほしい。バイオマス発電も増えているが、伐って燃やしてしまっているだけだという意見もある。山に入る人が減り機械化が進む中で、より慎重に考える必要もあるのではないか。私たちがこれから何を残していくのかという視点が重要であり、それはやはり環境ではないかと思う。その点を十分に踏まえたうえでソーラーやバイオマス、風力について必要なところに必要なものを作ってほしい。

仲埜議長：委員Ｂの指摘された景観については、展望の良いところだけではなく、重要な視点場も整理されるとよい。

委 員 Ｃ：まだソーラーやるのか、という感想は昔からある。広い土地があるからそこでやれば楽、と短絡的になっている。風力に向いた風が町では吹かないとの話があり、小型はいいかもしれないが大型は無理という試算結果を聞いたことがある。希少鳥類のバードストライクの問題も考えなければならない。釧路川、別保川があり、海もある。水力発電や波力発電には何故いかないのか、原因として得意じゃないからではないかと思っている。それで簡単な手段として木を切ってソーラーパネルになるのか、と思っている。方向性を間違うと、将来残すものがボロボロの土地になってしまう。FIT があるので処分し町に返却するまで事業者に責任があるが、ちゃんと更地にして返ってくるのか懸念はある。また更地に戻す際に重機の燃料を用いると、本末転倒になるんじゃないかとも思う。ソーラーばかりを偏重せずに、多角的な観点から環境、景観の問題、観光資源の観点も十分に踏まえて議論していかなければならない。京都では寺社のため 100 年単位で考えて植林しているという話を聞いたので、そういう視点は参考になると思う。ソーラーは容量の話もあるが、屋根置きにしても家庭の負担、補助金の財源の問題がある。公共車両の燃料の問題など、マップを作るうえでその背景にある町の様々な事情も加味してゼロカーボンに向かう必要がある。

仲埜議長：ゾーニングマップはルールであるので、それが守られるように条例や規制等が必要になる可能性もある。ゾーニングマップの作成はいいきっかけであるので、将来に向けて何を残したいのか、何を残したくないのかが整理されるとよい。

委 員 Ｄ：委員Ｃと同様の意見であるが、メガソーラーは頭打ちになって土地がほとんどないのではないかと思う。これからは洋上風力が中心になってくるのではないか。また曲がっていろんな場所に設置できる太陽光パネルもあるということで、活用の可能性はあるのではないかと思う。他の技術革新にも期待するところである。

委 員 Ｂ：根釧台地は丘陵地になっているので、日照時間が日本の中でも長い部類になるため、ソーラーの導入が進んでいる事情は分かるが、FIT 後の問題などの議論もできておらず、限界が来ているのではないか。また再エネ導入だけでなく、町民の省エネやリサイクル意識の向上などの些細な部分も進めていかないと、ゼロカーボンは形だけのものになってしまうのではないか。

委 員 Ｇ：太陽光、町内でも大面積で立っているところがあり、これ以上は勘弁してほしいが、まだ年間に何件か設置の相談で話がくることがある。吸収源である森林を伐採してまで設置するのはどうなのか。よく注視して行っていただきたい。

委 員 Ｈ：本業務は２ヵ年ということであるが、戦略としては長いスパンの話であるので、そのタイムスケールの感覚は重要。釧路町の豊かな自然は誇りであるが、本事業は自然の保全と明確に対立する部分もある。価値観の部分について整理がしっかりできていないと、説得力を持たないものとなってしまう。フォーラムやワークショップの中で町民がいかに身近な問題として捉えてもらうかという観点は非常に重要である。そのための工夫を十分にする必要があるし、その部分が蔑ろになると議論が空回りする懸念がある。メリ

ットだけでなく、勇気をもってデメリットについても提示したうえで議論を進めることが重要。

仲埜議長：フォーラム・ワークショップの進め方は決まっているものがあるのか。

事務局：フォーラムの実施内容については検討しているところではあるが、ZC 実現を目指す中で地域へのメリットがないと難しい部分もあるので、そうした部分が伝えられるものとしていきたい。

委 員 B：ゾーニンマップを作成してその評価を行う場面はあるのか。計画は適宜更新していくことが重要であると考える。

山内課長：前回の計画を作るときの会議では、町として各時点で CO2 削減をどのくらいにするか概算の計画量を出した。そこで最終的に区域施策編を作るという話をした時に、区域施策編を作るまでの期間が短いとの指摘を委員から受けたので、理事者と協議しゾーニングマップの事業に合わせて区域施策編を作成することとした。その方針についても本日報告し同意いただきたいと考えていた。マップについても区域施策編に組み込む必要がある。まずはマップを作り、それを区域施策編にどのように活用していくかということを別建てで並行して進めていく方針である。本審議会メンバーは区域施策編まで継続していただく予定である。ただし、区域施策編は業種別の事を考え、メンバーを増やす予定である。

仲埜議長：政策を実施していく中で、既存の計画を更新していくことが今後必要になるだろう。

梨澤主幹：先日コンサルの方に振興局に来て担当者にヒアリングしていただいた。同じ一つの課題であっても管轄が異なり、意見が異なる場合がある点は留意してほしい。2 年間で合意形成を進めてマップを作っていくとのことであり、自身が町民でもあることから、この先エネルギーについての課題をどのように解決していくのか、一町民としても職員としても興味があり、また尽力していきたい。振興局として課題もあるが、時間をかけて丁寧に合意形成に努めていってほしい。

委 員 B：委員が男性ばかりなので、女性を含めて多様な意見が必要かと考える。次世代を担う小中高生にも考えてもらう機会が必要かと考える。

事務局：小中高生については、ワークショップなどの場面で意見を聞いていくことができると考えている。また、委員の構成については、適宜メンバーの追加や、オブザーバーとしての新規参画など、柔軟に考えていきたい。

委 員 C：人口を考えると、2020 年は 1 万 8 千人、2050 年は 1 万千人の予想となっている。7 千人の減少を考えると、それだけで ZC を達成できるかもしれない。ZC だけでなく、人口減少の対策の観点についても、本審議会ではないかもしれないが議論していかなければならない。

委 員 B：中高生の参画も重要であるが、幼稚園や小学生にも PR していく必要があると考える。人格の形成がまだ十分でない段階で教育していくことで、メリットとして、感化されて大人の意識が向上することが期待できるのではないか。

仲埜議長：こうした議論の内容については公開の可否が分かれる部分はあるが、町民からすると勝手に決められてしまったということがないように、可能な限り情報公開を積極的に行っていくことが重要であると考える。まとまってからではなく、局面局面で、随時できる段階で公開できるように町には検討してもらいたい。活発な議論がなされた良い会であったと思う。本日はオンラインでの出席となったが、行けるタイミングでリアル参加したい。

5．今後の予定について

フォーラムの開催は 1 月 24 日であり、次回の審議会は 2 月の中旬を予定する。

6．閉会挨拶

釧路町環境生活課の山内課長より閉会の挨拶を行った。

山内課長：本日の活発な意見交換に感謝する。町としても再エネをどれだけ作るか、という観点だけではなく、ネット排出ゼロということで森林への吸収は必要であり、両者のバランスを考えていくことが必要。最終的には地域創生や地域が潤うという観点を重要にしたい。最終的な考えは区域施策編で示すこととなるが、今後も皆さんと活発に議論していきたい。

以上